



「ご一緒しませんか？」

黒田 朔

「先生、お花見会にご一緒しませんか？ Spring Concert の案内を配るので一緒に」とのうれしいお誘い。それも、お花見を楽しみ、一緒にお弁当を食べて、地元の皆さんをコンサートにお招きできるというのだから有り難い。

教会では「共に」、「協力し」などと考え、話すことは多いけれど、日頃の生活でご一緒することは多くはないような気がする。

教会では一緒だけれど、歳もバラバラ、経験や興味もバラバラ、生活の場もバラバラ、とにかく、何もかもバラバラなお互いが、ただ信仰によって集まっているのだから、「共に」「協力」とは言っても、一旦教会を離れるとバラバラになるのは仕方がない。聖書の中には、奴隷もその所有者も共に集まり、教会生活をしていたことが記録されている。それだけに、共に、協力する事、出来る事、する時、出来る時を考え、「ご一緒できること」を見つけてはどうだろう。

岸和田聖書教会には最高齢101歳のYさんが居られるが、Tさんの小学生以来の友達のお母さんと私たち夫婦にとっては懐かしい大先輩だ。そこで、先日、「せっかくなら、お見舞いにご一緒しませんか」と言うことになり、時間を合わせてお見舞いをした。

101歳とは思えない記憶力で、昔話をし、賛美し祈る、楽しい時を過ごすことが出来、ご一緒できてよかったとみんなが喜んだ。ご一緒することは恵みである。

「そして、毎日心をつにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださいました。」（使徒の働き 2:46,47）